

座ぶとん 会議

37・38

市では、風通しのよい開かれた市政を実現するために、市内の自治会をはじめ、自主的な地域活動を行っているグループ等を対象に、市長が市民の皆さんの生の声を聴く「座ぶとん会議」を開催しています。

地域住民の交流の場をつくる
と、平成12年度に結成された「虎姫子どもキャンパス実行委員会」。今回は高校生を中心とするメンバーと懇談を行いました。

同委員会は、世代を超えてい
ろんな人と交流し、楽しい時間
を共有して仲間意識を作ること
を最大の活動目的としていま
す。

一大イベント「サマーキャン
プ」では、参加者である小学生
の面倒を中学生ボランティア
が、その中学生ボランティアの
面倒を高校生以上のボランティ
アが見守ります。大人たちは子ども
たちの活動を見守ることに徹し
ます。ここでは、自炊をするこ
とで生きる力を養い、食べる喜
びを感じることをめざしている
とのことでした。

物事を自分たちの力で実行し
ていくことは、自尊感情を養う
うえで大切なことです。現代は、
人と接する機会が少なく、自分
に自信がない人が多いと言われ
ています。皆さんのように幅
広い年齢の人と接して、様々な
体験をすることで自信が付きま
す。

このような活動は、若い皆さ
んの人格形成に大きくプラスに

世代間交流で生きる力を

虎姫子どもキャンパス実行委員会

影響し、ま
た地域を愛
する気持ち
を育んでく
れると思っ
ます。20年
30年と続け
ていってほ
しい、素晴
らしい活動
です。

しかし皆さんが活動の拠点と
している虎御前山キャンプ場が
今後使えなくなること、補助
金がなくなってしまうことが心
配だとおっしゃいました。

県立虎御前山教育キャンプ場
は、平成25年度まで運営が続け
られますが、それ以降の存続は
困難とされています。また資金
面についても大変難しいところ
ですが、こうした素晴らしい活
動を応援するため、知恵を絞っ
ていかなくはならないと思っ
ています。



今回、皆さんから活動内容や
様々な話をお聞きして私自身本
当に勇気づけられました。若い
皆さんは、長浜市の希望です。
ぜひこの活動を糧に大きな夢を
持つて未来に向かってほしいと
思います。

シリーズ① 北近江の観音さま

北近江の寺院や仏堂に祀られている
多くの観音さま。今もなお地域の人た
ちによって守り継がれています。
その中から代表的なものをシリーズ
で紹介しています。

滋賀県指定文化財

「木造馬頭観音坐像（山門区）」

指定日：平成17年4月20日
所在地：西浅井町山門



馬頭観音は、頭上に馬の頭を戴いて、観音らしからぬ忿怒相（怒りの表情）を表します。人びとを救済するためにもろもろの魔障を滅するさまは、馬が濁水を飲み尽くし、雑草を食い尽くすようだと いわれ
ます。

本像は、大ぶりのたくましい馬頭を胸の上からつくり出しているのが特徴です。燃えさかるような髪（炎髪）に3つの眼と牙をもち、現状では三面六臂（3つの面と6本の腕）を表しますが、もとは八臂だったと考えられます。脚部は後補ですが、右腰脇から足の付け根を立ち上げていることから、当初から右膝を持ち上げていたと考えられます。赤と黒に塗り分けられたコントラストの強い彩色も後世のものですが、その大らかな木取りや太づくりでゆったりとした重量感のある造形から、平安時代後期（11世紀）の作と考えられます。

馬頭観音像は湖北から若狭にかけて分布していますが、本像は全国的にみても古例に属し、県内では現存最古の作例として注目されます。

問 文化財保護センター
(☎64-0395)

長浜・木之本警察署からのお知らせです

- ①新入学(園)児と高齢者の交通事故防止運動
3月15日(金)～4月15日(月)
- ②春の全国交通安全運動
4月6日(土)～4月15日(月)

新入学・入園などで子どもたちの行動範囲が広がります。子どもたちが交通事故に遭わないよう、正しい交通ルールの指導をお願いします。



平成25年の交通事故発生状況（1月末）

人身事故発生件数	46件 (+10件)
死者	0人 (±0)
傷者	55人 (+11人)
	(前年比)

暖かくなると、徒歩や自転車が出かける人が増えます。車を運転する人は、一旦停止や徐行をして「思いやり・ゆずりあい運転」をしましょう。

問 市民協働推進課 (☎65-8722)

春の日曜窓口3日間

3月17日、24日、4月7日（すべて日曜日）に本庁市民課の窓口を開きます。
なお、3月31日（日）は開庁しませんので、ご注意ください。

問 市民課 (☎65-6511)

地域の誇りが我らの強み

農事組合法人新堂ファーム

余呉町新堂の田62筆（9丁1反）を管理している農事組合法人新堂ファームの皆さん。今回は懇談の前に機械による田植えも体験させていただきました。

ここで収穫した米はJAを通して販売されますが、機械の経費を入れると手取りが少なく、規模拡大や販売手法の多角化を検討しているということでした。

新堂の田は砂地で、機械が傷みやすいのが難点ですが、おいしい米ができるそうです。また、飲用できる超軟水の地下水を費沢に使っており、味が引き立つのが魅力で、国のエコファーマや県の環境こだわり農産物の認定を受けています。



この米を「余呉米」としてブランド化していくためには、マーケティングと販路の確保が大切です。余呉の大自然とおいしい水のイメージ、そして米作りにかける皆さんの思いをうまくストーリー化できれば、いい展開が期待できるのではと思います。この点は、余呉町地域づくり協議会でも検討されるそうで、市としてもPR等で協力したいと考えています。

農業における最大の課題は、被害対策です。新堂ファームでは、田畑の周りを鉄線や鉄製波板で

囲んでいますが、シカは飛び越えてくるようです。獣害に対する有効な手段は見つけにくいですが、根気強い対策が大切であり、市は県と連携して日々取り組んでいます。

また新堂には、賤ヶ岳の戦いで柴田勝家公に忠義を尽くし、身代わりとなって戦い、余呉の地で果てた武将「毛受兄弟」の墓があります。その供養や顕彰を行うため、地元の人たちが「毛受兄弟史跡保存会」を組織し、年忌法要や数多くある史跡周辺の清掃作業、案内板・道案内の整備等をされています。

このように、郷土の自然の恵みや先人の功績を誇りとし、皆で地域づくりに取り組む姿には敬意を表します。本日の貴重なご意見をしっかりと受け止め、施策に反映できるよう奮闘してまいります。

問 市民広報室 (☎65-6504)